

エコアクション21 環境経営レポート

第75期

活動期間 令和5年10月1日～令和6年9月30日



発行年月日：令和6年12月5日

小西建設工業株式会社

目 次

	環境経営方針	P1
1	事業活動の内容	P2
2	実施体制	P3
3	環境経営目標	P4,5
4	75期運用実績	P6,7
5	75期環境経営計画	P8
6	75期の環境経営計画の取組結果と評価	P9
7	次年度の取組内容	P10
8	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P10
9	代表者による評価と見直し	P10

環境経営方針

I. 基本理念

小西建設工業株式会社は、土木工事・舗装工事・水道施設工事を通じて地球環境問題を考え、二酸化炭素の削減、電気の省エネ化やグリーン購入等の環境負荷の低減に積極的に取り組む事で、地域社会へ貢献すると共に環境保全に取り組み、環境経営の継続的改善を実施します。

II. 行動指針

事業活動の中に環境経営システムを導入し、環境負荷の低減を推進していきます。

取組事項

- 1 (1)電気・ガソリン・軽油の使用量を減らして、二酸化炭素の排出量を削減します。
(2)産業廃棄物の発生抑制・削減・再利用を推進します。
(3)各現場では環境に配慮した施工を行います。
- 2 事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。
- 3 環境への理解を全社員に周知して、環境意識の向上を目指します。
- 4 県土整備事務所及び北九州市との協定により、風水災害時の緊急事態に対応します。

制定日 平成23年9月30日

改定日 令和2年12月5日

小西建設工業株式会社

代表取締役 小西 孝二

1. 事業活動の内容

1 事業所名 小西建設工業株式会社

2 代表者 代表取締役 小西 孝二

3 住所 本社 北九州市八幡西区折尾三丁目4番15号
 電話番号 093-602-0122
 Fax番号 093-601-0605
 E-mail kouzibu@konishi-jp.com
 岡垣支店 遠賀郡岡垣町大字海老津1047
 遠賀支店 遠賀郡遠賀町遠賀川二丁目1812-7
 資材倉庫 遠賀郡岡垣町大字上畑笠松

4 環境管理責任者 小西 浩介

5 連絡担当者名 小西 浩介

6 事業内容	土木工事業 とび・土工工事業 舗装工事業 水道施設工事業 石工事業 解体工事業	福岡県知事許可	(特一2)第63439	令和3年1月13日
	鋼構造物工事業		(特一2)第63439	令和2年8月26日

7 営業年数 74年(昭和24年10月19日設立)

8 資本金 3000万円

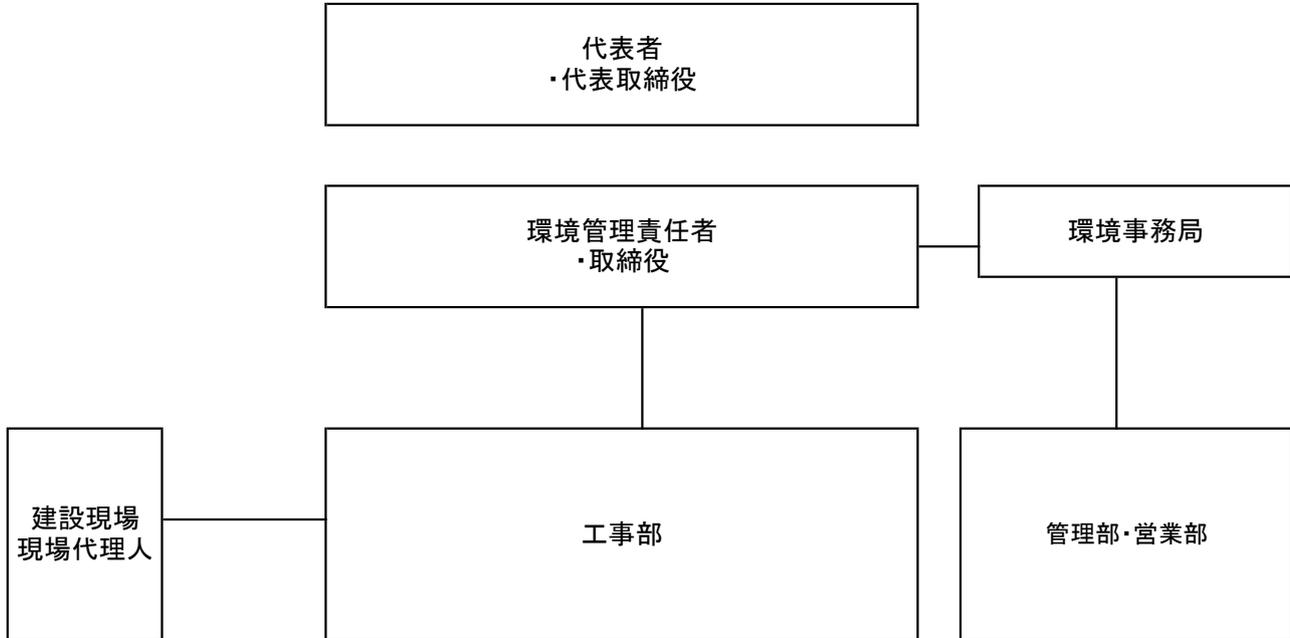
9 産業廃棄物収集運搬業許可 許可証を取得しているが、業として営んでいない。(自社の運搬分のみ)

10 事業規模	活動規模	単位	73期	74期	75期
	売上高	百万円	558	356	335
	従業員	人	20	18	17
	床面積	m ²	165.69	165.69	165.69
	倉庫床面積	m ²	112.91	112.91	112.91
	資材置場面積	m ²	562.09	562.09	562.09

11 当社の事業年度 10月1日～翌年9月30日

12 認証・登録範囲 全組織・全活動

2. 実施体制



役割分担表

所属(役職)	役割・責任・権限・使命
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の策定。 ・環境管理責任者を任命する。 ・EA21に関する全ての責任と運用についての権限を持つ。 ・代表者による全体の評価と見直し
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21を構築し実施、管理する。 ・環境への負荷及び取り組みの自己チェックを確認し承認する。 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告する。 ・環境関連法規制等の遵守、評価を行う。
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の自己チェックの実施。 ・環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境活動レポートの作成。
管理部	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の推進。
工事部	<ul style="list-style-type: none"> ・各現場の環境活動への取り組みの推進。 ・環境活動の推進。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21に積極的に取り組む。 ・EA21の理解と環境活動の実施。

3. 環境経営目標

作成者:環境管理責任者
作成日:令和6年9月2日

中期環境経営目標(事務所)

環境目標		単位	平成30年10月～ 令和元年9月(70期) (基準年度)	75期 目標	76期 目標	77期 目標
1	二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO ₂	19,221.6	18,645.0 -3.0%	18,548.8 -3.5%	18,452.7 -4.0%
	1-1 電気使用量の削減	kWh	16,163.0	15,678.1 -3.0%	15,597.3 -3.5%	15,516.5 -4.0%
	1-2 ガソリン使用量の削減	ℓ	4,180.5	4,055.1 -3.0%	4,034.2 -3.5%	4,013.3 -4.0%
	1-3 LPG使用量の削減	kg	25.6	24.8 -3.0%	24.7 -3.5%	24.6 -4.0%
2	廃棄物の削減	kg	496.1	481.2 -3.0%	478.7 -3.5%	476.3 -4.0%

- 購入電力の排出係数は、九州電力=0.462(kg-CO₂-kWh)とシン・エナジー=0.592(kg-CO₂-kWh)で計算した。
(平成30年度環境省・経済産業省公表参照)
- 基準年は、70期(平成30年10月～令和元年9月)とした。
- 運用期間は、令和5年10月から令和6年9月である。
- 水使用量の削減は目標に設定してない。その理由は地下水を使用しているためである。
尚、飲み水はウォーターサーバーを使用している。
- 化学物質は使用しない。

中期環境経営目標(建設現場)

環境目標		単位	平成30年10月～ 令和元年9月(70期)	75期	76期	77期	
			(基準年度)	目標	目標	目標	
1		二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO ₂	108,291.0	105,042.3 -3.0%	104,500.8 -3.5%	103,959.4 -4.0%
	1-1	電気使用量の削減	kWh	16,412.0	15,919.6 -3.0%	15,837.6 -3.5%	15,755.5 -4.0%
	1-2	ガソリン使用量の削減	ℓ	9,479.5	9,195.1 -3.0%	9,147.7 -3.5%	9,100.3 -4.0%
	1-3	軽油使用量の削減	ℓ	28,891.9	28,025.1 -3.0%	27,880.7 -3.5%	27,736.2 -4.0%
	1-4	灯油使用量	ℓ	874.5	848.3 -3.0%	843.9 -3.5%	839.5 -4.0%
2		建設副産物のリサイクル率 (コンクリート殻、アスファルト殻)	%	100	100	100	100
3		建設騒音・振動の発生に伴う苦情	件	0	0	0	0
4		地域貢献活動	回	1	1	1	1
5		重大な手戻り	件	0	0	0	0

1. 購入電力の排出係数は、0.462(kg-CO₂-kWh)で計算した。(平成30年度環境省・経済産業省公表参照)
2. 基準年は、70期(平成30年10月～令和元年9月)とした。
3. 地域貢献活動は、各現場、工期内に原則月1回現場周辺の清掃活動を実施する。
4. 水使用量の削減は目標に設定してない。その理由は現場毎に使用用途が違うので、必要に応じ岡垣支店の地下水を使用している為である。
5. 化学物質は使用しない。

4. 第75期運用実績

作成者: 環境管理責任者
作成日: 令和6年12月2日

第75期運用実績(事務所)

環境目標		単位	平成30年10月～ 令和元年9月(72期)	令和5年10月～ 令和6年9月(75期)	75期		
			(基準年度)	目標	実績		
1		二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO ₂	19,221.6	18,645.0 -3.0%	16,354.8 87.7%	達成
	1-1	電気使用量の削減	kWh	16,163.0	15,678.1 -3.0%	16,214.0 103.4%	未達成
	1-2	ガソリン使用量の削減	ℓ	4,180.5	4,055.1 -3.0%	2,873.9 70.9%	達成
	1-3	LPG使用量の削減	kg	25.6	24.8 -3.0%	31.7 127.7%	未達成
2		廃棄物の削減	kg	496.1	481.2 -3.0%	292.5 60.8%	達成

1. 購入電力の排出係数は、九州電力=0.462(kg-CO₂-kWh)とシン・エナジー=0.592(kg-CO₂-kWh)で計算した。
(平成30年度環境省・経済産業省公表参照)
2. 基準年は、70期(平成30年10月～令和元年9月)とした。
3. 運用期間は、令和5年10月から令和6年9月である。
4. 水使用量の削減は目標に設定してない。その理由は地下水を使用しているためである。
尚、飲み水はウォーターサーバーを使用している。
5. 化学物質は使用しない。

第75期運用実績(建設現場)

環境目標		単位	平成30年10月～ 令和元年9月(70期)	令和5年10月～ 令和6年9月(75期)	75期		
			(基準年度)	目標	実績		
1		二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO ₂	108,291.0	105,042.3 -3.0%	79,038.8 75.2%	達成
	1-1	電気使用量の削減	kWh	16,412.0	15,919.6 -3.0%	12,615.0 79.2%	達成
	1-2	ガソリン使用量の削減	リットル	9,479.5	9,195.1 -3.0%	6,246.9 67.9%	達成
	1-3	軽油使用量の削減	リットル	28,891.9	28,025.1 -3.0%	22,529.2 80.4%	達成
	1-4	灯油使用量	リットル	874.5	848.3 -3.0%	238.0 28.1%	達成
2		建設副産物のリサイクル率 (コンクリート殻、アスファルト殻)	%	100	100	100	達成
4		建設騒音・振動の発生に伴う苦情	件	0	0	0	達成
6		地域貢献活動	1回/月	1	1	1	達成
7		重大な手戻り	件	0	0	0	達成

1. 購入電力の排出係数は、0.462(kg-CO₂-kWh)で計算した。(平成30年度環境省・経済産業省公表参照)
2. 基準年は、70期(平成30年10月～令和元年9月)とした。
3. 地域貢献活動は、各現場、工期内に原則月1回現場周辺の清掃活動を実施する。
4. 水使用量の削減は目標に設定してない。その理由は現場毎に使用用途が違うので、必要に応じ岡垣支店の地下水を使用している為である。
5. 化学物質は使用しない。

5. 75期環境経営計画

事務所

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め、実行する。(夏28度・冬24度)
 - ② 昼休みの消灯
 - ③ 残業時間の不要な照明の消灯
 - ④ 長時間席を離れるとき、パソコンの電源OFF
 - 2) ガソリン使用率の削減
 - ① エコドライブの励行
 - ② アイドリングストップの励行
 - 3) LPGの使用量削減
 - ① 給湯器の効率使用
- (2) 廃棄物総排出量の削減
 - 1) 紙使用量の削減、一般廃棄物の削減
 - ① 裏紙の使用
 - ② 一般廃棄物は、分別ルールに従って実施する。
 - ③ 分別したものは、適切に処理する。

建設現場

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - 1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め、実行する。(夏28度・冬24度)
 - ② 不要な照明の消灯
 - 2) 灯油使用量の削減
 - ① 不要な暖房の節約
 - 3) 軽油使用量の削減
 - ① 重機の燃費向上(アイドリングストップ)
 - ② 重機・車両の適性空気圧の整備
- (2) 廃棄物の削減(建設副資材のリサイクル率)
 - 1) リサイクル率の向上
 - ① 分別の徹底
 - ② 再利用・再生利用の推進
- (3) 建設騒音・振動の発生に伴う苦情
 - 1) 建設騒音、振動の発生を低減し、苦情の発生をなくす。
 - ① 低騒音型建設機材の検討・採用
 - ② 作業工程の工夫等影響の最小限化
- (4) 地域貢献活動
 - 1) 地域との協調
 - ① 建設現場周辺の清掃
 - ② 河川清掃、海岸清掃等
- (5) 重大な手戻り
 - ① 各現場、設計図書を把握し円滑に工事を進める。
 - ② 各現場、綿密な打合せを行い円滑に工事を進める。
 - ③ 各現場、報告、連絡、相談を行い円滑に工事を進める。

6. 75期の環境経営計画の取組結果と評価

事務所

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
事務所では、二酸化炭素排出量は目標の排出量より12%減となった。
その理由は、ガソリンの使用量が約30%減ったからである。
- (2) 廃棄物総排出量の削減
事務所での廃棄物の排出量は、目標の排出量より約40%減だった。
その理由は、コピー用紙の使用量が減ったからである。

建設現場

- (1) 二酸化炭素排出量の削減
現場では、二酸化炭素排出量は約25%減だった。
これは、全ての項目で使用量が減少した為だと考えられる。
それは現場数が減少し現場事務所の設置の無い期間があり、
重機等の使用も減少した為だと考えられる。
- (2) 廃棄物の削減(建設副資材のリサイクル率)
 - 1) 発生抑制の為、設計図書の照査及び打合せの徹底をする。
 - 2) リサイクル率の向上
コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊ともに100%リサイクルであった。
- (3) 建設騒音・振動の発生に伴う苦情
 - 1) 建設騒音、振動の発生を低減し、苦情が生じないようにした。
苦情の発生はなかった。
今後とも、隣接住民との工事概要説明等を行い理解を密にしていく。
- (4) 地域貢献活動
地域ボランティア、河川、海岸、保安林美化活動等へ参加した。
各現場、工期内に月1回現場周辺の清掃活動を実施した。
- (5) 重大な手戻り
今期の手戻しはなかった。来期も手戻しのないように現場管理に努める。

7. 次年度の取組内容

(2)第76期の取組内容

1)事務所

- ①CO2の削減は、基準年(第70期)に対して3.5%の削減とします。
- ②廃棄物の削減は、第70期をもとに3.5%の削減とします。

2)建設現場

- ①CO2の削減は、基準年(70期)に対して3.5%の削減とします。
- ②廃棄物の削減は、建設副産物のリサイクル率コンクリート塊100%、アスファルトコンクリート100%とします。
- ③建設騒音・振動の発生を防止するとともに、これに関する苦情の発生をゼロにするように努めます。
- ④地域貢献活動として、各現場、工期内に原則月1回現場周辺の清掃活動を実施します。
- ⑤手戻しをなくし円滑に工事を進めます。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況をチェックの結果(廃棄物処理法、建設リサイクル法、騒音規制法、振動規制法、オフロード法、改正フロン法)違反はありませんでした。
尚、関係当局より違反の指摘、利害関係者からの訴訟等も過去5年間ありませんでした。

9. 代表者による評価と見直し・指示

(1)評価

- 1)事務所の二酸化炭素総排出量削減は達成となりました。
このことはガソリン使用量が減った為だと考えられます。
これは近年、発注機関のDX化の推進により、契約が従来の紙での契約に変わり電子契約に変わったり、指名願いの申請も電子化されたりと車での移動が減少した為だと思います。
- 2)現場の二酸化炭素総排出量削減は達成となりました。このことは全ての項目が減った為だと考えられます。
これは現場数が減少したことと、現場事務所を設置しない現場があり、重機等の稼働が少なかったからだと思います。
- 3)総評としては事故、苦情もなく今期を終わった事と従業員や工事関係業者の方々が健康で大病もせず今期が終わった事が何よりも評価出来る事だと考えます。
しかし、今期は売上が減少したことによる二酸化炭素総排出量の減少が考えられます。
経営と環境の両立が出来るように、来期は売上が回復出来るようにつとめます。
これからもムリ、ムダ、のないように健康を継続していきましょう。

(2)見直し・指示

- 1)CO2の削減・廃棄物の削減の推進は、継続して実施します。
- 2)現場では、事故をなくし、苦情をなくし、手もどりをなくすように指導します。
- 3)事務所は未達成部の意識の高揚につとめて目標達成につとめる。